

第60巻 PDF 読本



東室蘭駅



日本一秘境駅小幌駅



室蘭本線

2025年6月29日 歩く鉄道作家 檜原 勉

<目次>

はじめに

第1章 室蘭本線とは・・・・・・・・・・6

第2章 岩見沢～苫小牧（営業キロ 75.8 km）・・・・・・・・21

第1節 岩見沢～由仁

第2節 由仁～安平

第3節 安平～苫小牧

第3章 室蘭～苫小牧（営業キロ 65.0 km）・・・・・・・・54

第1節 室蘭～東室蘭～登別

第2節 登別～社台

第3節 社台～苫小牧

第4章 長万部～東室蘭（営業キロ 77.8 km）・・・・・・・・94

第1節 長万部～静狩～小幌

第2節 静狩～豊浦

第3節 豊浦～稀府

第4節 稀府～東室蘭

第5章 まとめ

総営業キロ 218.0 km

<室蘭本線路線図>



室蘭本線とは	営業キロ	摘要
岩見沢～苫小牧	75.8 km	非電化・複線と単線併用
室蘭～東室蘭～苫小牧	65.0 km	電化・複線
長万部～東室蘭	77.2 km	非電化・複線と単線併用

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、室蘭本線の旅（総営業キロ 218.0 km）について執筆させて頂きました。

本作品はカッシー館にある檜原勉文庫拡充で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 70 作目の節目著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

（2025 年 6 月 11 日～2025 年 6 月 22 日で踏破）

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

<ご参考>

本著書に登場する駅舎は、“日本横断歩き鉄の旅“PDF 読本シリーズ中、カッシー館のブログに登場する「榎原勉文庫拡充」にて、次の PDF 読本からダイジェスト版でもご覧頂けます。

第 60 編（日本横断歩き鉄の旅）

室蘭本線



2025 年 6 月 29 日 榎原 勉

第1章 室蘭本線とは

目次でお示しした路線です。

第1節 概要

2025年6月11日（水）からの22日（日）までの11泊12日の室蘭本線の旅（岩見沢～長万部：営業キロ218km）、沢山の方のご声援と天や神のご加護を得て、この本線に登場する47ある全駅舎の立ち寄りに成功する。この区間、熊が出没しそうな区間もあったが、ハラハラドキドキしながらも無事踏破でき、これまでの旅の中でも印象に残る旅となった。これで**通算営業キロは、1万6千837km（活動日数835日、日本の鉄道の60.8%。地球円周の42.0%）**となり、当面の目標の1万7千キロまで163kmとなった。



今回の旅の特筆事項は次の通り。

①JR北海道のダイヤは少ないし、ホテルの数も少ないので、旅プランの策定に苦労したが、推敲に推敲を重ねたプランが功を奏し、室蘭本線の旅を無事終結できる。すなわち、苫小牧7泊、東室蘭4泊は大正解であった。今思うと、このプラン以外では、”室蘭本線の踏破は難しいのでは”と自負できる。

②これまで秘境駅は幾つも踏破してきたが、その中でも静狩駅と礼文駅の間にある小幌駅の踏破は、難関中の難関であった。それは、国道37号線から1.5km位、熊の出没のリスクが漂う森林、橋のない小川に沿った獣道を、命がけで踏破したからだ。これ

までの飯田線の田本駅、土讃線の坪尻駅に比べ、数倍難しい秘境駅であった。それ故、無鉄砲では臨めない区間であった。ネットで検索しても道筋は出てこない。歩く鉄道作家である以上、何とか無事踏破し、第三者に発信したかった。来る日も来る日も悩んだ結果、ある日運よく、ネットでやっと今回歩いた道筋に出会う。



③今回の旅は、一度も傘をさすことなく、風光明媚な箇所が多々登場する室蘭本線を踏破できた。7日以上の旅で、傘の登場のない旅は初となった。恰も本州を歩いているような錯覚（街並み、自動販売機、コンビニになど）もした。6月の北海道は日も長いし、梅雨もないので、2014年～2016年に引き続きそれを実感した。



※苫小牧西港フェリーターミナル駅にも立ち寄る



※大岸駅界隈の海岸、洞爺駅界隈の虻田神社（あぶた）



※室蘭駅に繋がる白鳥大橋下を潜る

④今回の旅を通じ、北海道で初めて JR 線による面ができた。すなわち、長万部～ニセコ～倶知安～小樽～札幌～岩見沢～苫小牧～登別～東室蘭～長万部のエリア。今回の旅を通じ、将来リスクを勘案した旅プラン（歩く鉄と乗り鉄併用）で、帯広、釧路、根室、網走、北見、富良野などに何とか立ち寄りたいたいという夢広がる。

⑤今回の旅程、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」と「人生万事塞翁が馬」の諺を強く感じたことはない。前者は秘境駅小幌の踏破が該当。後者は北海道新幹線の工事で、神戸大阪の旅期間中、当初予定していた長万部泊が NG となる連絡を頂く。一瞬ショックとなり、東室蘭から長万部区間の踏破はできないのではないかと脳裏に漂う。しかし、神戸大阪の旅から戻り次第、推敲に推敲を重ねた結果、東室蘭のホテルの宿泊予約にこぎつける。もし、長万部に 4 泊宿泊していたら、ダイヤの関係から小幌駅も含め、東室蘭から長万部までの全駅舎立ち寄りにはできていないかも知れないと。すなわち、九ヶ条からなる”こだわり鉄道つたい歩き”の第 5 条（先憂後楽の考え方）に反する歩きとなるからだ。

⑥古山駅（ふるさん）、早来駅（はやきた）、安平駅（あびら）、稀府駅（まれっふ）など読めない駅舎と対面する。



⑦由仁駅、有珠駅、稀府駅で駅備え付きのメモ帳に今回の旅をメモする。（これまで北海道の旅でメモ帳に記載した駅は問寒別駅など）

⑧旅先や飲み屋などで沢山の方と出会う。その都度、小幌駅の踏破についてご意見を伺う。2015 年以来 2 度目である、”新千歳空港温泉”の立ち寄りには旅の締めとして最高であった。



※粹な喫茶店” えちおび屋”（糸井駅界限）



※郷土料理” せきはら”にて（苫小牧駅界限）



※居酒屋”まんまる”にて（東室蘭駅界限）、新千歳空港温泉

⑧室蘭本線は概ね複線であるが、由仁～三川、豊浦～稀府などで単線となる区間がある。また、室蘭本線のうち、沼ノ端～苫小牧～東室蘭～室蘭は電化区間。その他は非電化区間である。更に、JR 北海道の電化区間は、札幌～旭川、小樽～札幌～白石～千歳～沼ノ端～苫小牧～登別～東室蘭～室蘭、函館～新函館北斗であると判明。

第2節 旅プラン

室蘭本線の旅（岩見沢～長万部：営業キロ 211 km、東室蘭～室蘭：7.0 km）

○2025年6月11日（水）曇り

ANA61便 羽田 11：00 → 千歳 12：35

千歳空港 12：50 → 南千歳 12：53

南千歳 12：59 → 苫小牧 13：21

苫小牧泊（東横イン苫小牧駅前：0144-32-1045）



○6月12日（木）曇り／晴れ

苫小牧 6:11 → 岩見沢 7:40

岩見沢～志文～栗沢～栗丘～栗山～由仁（ゆに） （24.6 km）

由仁 15:34 → 苫小牧 16:41

苫小牧泊

○6月13日（金）晴れ

苫小牧 6:11 → 由仁 7:06

由仁～古山～三川～追分～安平（22.4 km）

安平 14:16 → 苫小牧 14:45

苫小牧泊

○6月14日（土）晴れ

苫小牧 7:31 → 安平 8:01

安平～早来～遠浅～沼ノ端～苫小牧（28.8 km）

苫小牧泊

○6月15日（日）曇り

苫小牧 6 : 10 → 室蘭 7 : 33

室蘭～母恋～御埼～輪西～東室蘭～鷺別～幌別～富浦～登別 (24.5 km)

登別 17 : 26 → 苫小牧 18 : 23

苫小牧泊

○6月16日(月) 晴れ

苫小牧 7 : 49 → 登別 8 : 32

登別～虎杖浜～竹浦～北吉原～萩野～白老～社台 (24.4 km)

社台 16 : 30 → 苫小牧 16 : 48

苫小牧泊+

○6月17日(火) 曇り／晴れ'

苫小牧 7 : 49 → 社台 8 : 09

社台～錦岡～糸井～青葉～苫小牧 (16.1 km)

苫小牧泊

○6月18日(水) 快晴

北斗2号 苫小牧 6 : 44 → 長万部 8 : 07

長万部～静狩～小幌 (17.5 km)

小幌 15 : 39 → 東室蘭 16 : 54

東室蘭泊 (アパホテル室蘭 0143-43-2333)



○6月19日(木) 快晴

東室蘭 7:27 → 静狩 8:42

小幌～礼文～大岸～豊浦 (18.6 km)

(実際には: 静狩～小幌～礼文～大岸～豊浦: 25.5 km)

豊浦 17:22 → 東室蘭 18:20

東室蘭泊

○6月20日(金) 曇り/晴れ

東室蘭 7:27 → 豊浦 8:17

豊浦～洞爺～有珠～長和～伊達紋別～北舟岡～稀府 (まれっぺ) (24.5 km)

稀府 16:36 → 東室蘭 16:54

東室蘭泊

○6月21日(土) 曇り/晴れ

東室蘭 7:27 → 稀府 7:47

稀府～黄金～埼守～本輪西～東室蘭 (16.6 km)

東室蘭泊

○6月22日（日）晴れ

北斗3号 東室蘭 10:03 → 南千歳 10:57

南千歳 11:02 → 千歳空港 11:06

新千歳空港温泉（0123-46-4126）で旅の疲れ癒す（空港ビル 4F）



ANA66便 千歳 14:30 → 羽田 16:05

第3節 1日目：6月11日（水）：苫小牧への移動 曇り

2025年6月11日（水）曇り、室蘭本線の旅の1日目は、飛行機で新千歳空港まで移動し、そこからJR線を乗り継いで苫小牧まで向かう。途中、南千歳で乗り換えとなる。苫小牧駅に到着するや否や、みどり生命時代お世話になったベルコの建物が目に入る。苫小牧は生まれて初めて踏み入れる地であるが、かつて山形駅界隈の飲み屋で知り合った泥舟さんの出身の地であることと、そしてマー君の母校駒大苫小牧高がある地であることを思い出し親しみを感じる。駅前にある東横インには14時頃到着する。チェックインを済ませ、15時過ぎ、本日の飲み屋探しを兼ね、苫小牧の街並みを散歩する。



※いざ出発（羽田空港にて）





※南千歳駅への路



苫小牧駅への路



※ 苫小牧駅、苫小牧ベルコ、東横イン

駅から少し歩いた先に王子製紙工場があった。後日お邪魔するせきはら店主のお話によると、この工場では新聞紙や段ボール箱を中心に製造しているとのことであった。また、最近紙離れが多くなり、一部工場を縮小したとのことであった。汗を流したあと、ホテルから10分位ある、海鮮茶屋”海陽”にお邪魔し、明日からの英気を養う。



※ 王子製紙苫小牧工場



※アカエゾマツを背景に



※飲み屋までの路、池田酒店に立ち寄り日本酒ゲット



※船中八策を飲みながら明日のからの歩きを考える